



四年前、「史跡小笠原城跡整備基本計画」が始まった時に町会長として関わっていました。その流れもあり、少しお時間を頂戴します。

松本市教育委員会と計画について何度か話し合いを持ちました。その中で林道の崩落があり修復が必要である事を伝えましたが、市は全く動いてくれませんでした。赤廣町会長に代わってからは赤廣町会長が粘りつよく市に働きかけてくれたおかげで、修復するという約束を取り付けてくれました。

でも問題点はまだあります。問題点を今ここで話し始めると長くかかりますので帰ってから資料を読んでくれたらと思います。

資料1の表題に「これからの橋倉町会を左右する史跡小笠原城跡整備基本計画が進んでいます」とあります。この言葉は私の言葉ではありません。橋倉諏訪社の記録を読んでいた時に見つけたのですが、1963年、(61年前)橋倉諏訪社の記録には昭和38年に林区と橋倉区の境界を決めたと言う記録があり、その中に**橋倉区の将来の発展のため小笠原城跡を公園化する事**という記述がありました。そして昭和41年に林道の第1期工事完成。昭和42年開通。しかし「公園化して橋倉区の将来の発展に繋げる」という夢は、残念ながらいつの間にか忘れ去られ今は受け継がれていません。

「小笠原城跡を公園化して橋倉区の将来の発展に繋げる」その記述を代弁したものです。

五、六年前に頂上の広場の桜が病気になって最後の何本かを切った事を覚えています。橋倉区のビジョンが言葉で残してあったら、切った時に新しい桜を植えることをしていたと思います。今かろうじて城跡に続く林道には当時の桜並木がわずかに残されているだけです。

私はその畑に一本の桜を植えました。50年ぐらい経つと公民館の桜とトンネルができます。そんな話を裕さんと話していたら裕さんも畑に林道に沿って何本か植える事を考えているらしく驚きました。桜は咲くのに五、六年かかるらしいという話をすると、「弘法山の桜も最初はなんだろうと思っていたら今はもう桜の名所になっている」。こういう橋倉のビジョンは壮大な「ランドデザイン」でもいいと思います。



橋倉町会執行部への提案

橋倉町会全員で橋倉町会のビジョンを考えていただけませんか？

橋倉町会には規約はあってもビジョンというものがありません。

「こうであって欲しい橋倉町会」が橋倉町会の共通言語として表現されていないために、実現するための取り組みが明確でなく、その場その場の考えで物事を決め進めてきていたように思います。橋倉町会にビジョンがあれば、町会長として様々な場面に出くわしたときに、迷う事なく橋倉町会の代表として伝える判断ができ、意見も言えます。同じように町会の役員も会議に出席したときに代表として意見を言うことができます。

若い人は仕事も忙しく町会の将来の事まで気が回らないという声を先日耳にしましたが、橋倉町会の将来像があれば、若者に限らず町会全員が夢を持つことができます。今年から橋倉ビジョンを掲げ、達成のための取り組みなどをみんなで考えたらどうでしょうか。今の世代が生きているうちにビジョンを達成できなくても次の世代がビジョンに向かって進んでくれるような長い取り組みも必要な事だと思います。

町会組織は企業や行政とは持っているものが違うので、町会が持っているモノやコトを活用する事しかできません。資金力もないので交付金や助成金などを探し使って、橋倉ビジョンに向かって進みませんか。

※

「橋倉ビジョン」←みんなが理想とするこうであってほしい橋倉町会のイメージ

「実現するための取り組み」←いくつでも